

観賞温室展示(要入館料)

観賞温室第2室 企画展示

- 7月13日(水)～9月4日(日)  
「食虫植物と謎とき探検」
- 9月7日(水)～11月13日(日)  
「工芸と植物展」  
・第1部「暮らしを支える新潟の工芸展」  
9月7日(水)～10月10日(月・祝)  
・第2部「美しい新潟の工芸展」  
10月12日(水)～11月13日(日)

観賞温室第3室1階 作品展示

- 7月5日(火)～7月24日(日)  
「植物色図鑑 色サンプル展4」  
出展:植物色図鑑
- 7月26日(火)～8月7日(日)  
「明後日朝顔プロジェクト  
朝顔の種で出かけよう」  
出展:明後日朝顔プロジェクトNIIGATA
- 8月9日(火)～8月21日(日)  
「博物館実習生展」
- 8月23日(火)～9月4日(日)  
「香りと森の動物たち」  
出展:Tommy's Stone  
「夢の扉」  
出展:Hiro
- 9月7日(水)～9月19日(月・祝)  
「はなはっぱみ展」  
出展:はなはっぱみ製作委員会

観賞温室第3室2室展示

- 7月13日(水)～9月4日(日)  
「熱帯果樹・タネ展」  
夏休み特別企画。当園の保有するスターフルーツや  
パッションフルーツなど珍しい熱帯果樹や世界の  
かわったタネの展示。

イベント

夏の夜間開園

8/14日 15日

温室開館時間を20:30まで延長  
(入館は20:00まで)

★夜の植物ガイドツアー&熱帯フルーツ試食  
①18:00～②19:00～  
参加費:300円/定員:15名/当日開催時間の1時間前から申込み受付



イベント

9/19日祝 敬老の日のシルバー(65歳以上)  
温室入館無料デー

花と緑の教室

会場・集合場所/花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)  
要予約 開催日の1ヶ月前から電話受付

- 9/11(日)13:30～15:00  
「植物学講座④」  
定員:30名/参加費:300円/講師:新潟県立植物園友の会
- 9/14(水)13:30～15:00  
「植物園花散歩⑤ 雑草」  
定員:15名/参加費:300円/講師:田中良明(当園職員)

花と緑の相談コーナー ●場所/花と緑の情報センター1階

専用ダイヤル 0250-24-6437  
専門相談員がわかりやすくお答えします。  
来園のほか電話やFAXなどお気軽にお問い合わせください。  
相談受付日:水曜日・日曜日10:30～15:00

夏休みのお子様、ファミリー向けの教室や  
イベントにつきましては、「食虫植物と謎とき探検」  
チラシをご覧ください

食虫植物と  
謎とき探検

平成28年  
7/13水 9/4日



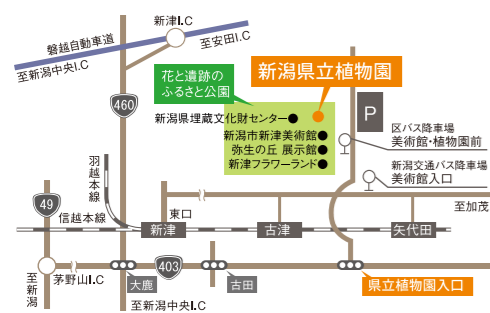
虫になって、クイズに答えながら迷路を進もう!  
正解すればハエトリソウやウツボカズラ、モウセンゴケ、サラセニアなど、  
普段見ることができない変わった形の食虫植物を見ることができるかも。  
夏休みの植物観察、調べ学習にぴったり!イベントも多数用意。  
夏休みはやっぱり県立植物園の「食虫植物展」が面白い!!

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地  
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410  
HP <http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>  
指定管理者 国際総合学園・都市緑化センターグループ

情報発信しています

新潟県立植物園 検索



VEGETABLE OIL INK 植物油インキで印刷しています

◆観賞温室開館日 温室開館時間/9:30～16:30(入館締切16:00) 休館日 ●臨時開館日

7 July							8 August							9 September						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2	・	1	2	3	4	5	6	・	・	・	・	1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31	・	・	・	25	26	27	28	29	30	・

◆観賞温室利用案内 屋外園地無料 小中学生土・日・祝日無料

	個人	団体(20名以上)	回数券(5回分)	定期券(6ヶ月)
大人	600円	480円	2,500円	1,200円
シルバー(65歳以上)	500円			
高校生・学生	300円	300円		
小・中学生	100円	100円		

●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。  
●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。  
●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。  
屋外園地無料 小中学生土・日・祝日無料

◆交通アクセス 駐車場無料:350台収容

- JR 信越線古津駅下車徒歩約25分
- バス
  - ・区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
  - ・新潟交通バス:新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分
- 高速道路 磐越自動車道新津ICから国道403号で三条/加茂方面へ約15分
- 一般道路 (新潟方面から)国道49号から茅野山I.C.を国道403号加茂/新津方面へ

観賞温室第2室 企画展示

工芸と植物展

第1部「暮らしを支える新潟の工芸」

9/7水 10/10月祝

第2部「美しい新潟の工芸」

10/12水 11/13日

織物や漆器など、数多くある新潟の美しい工芸品の中から、植物を素材とするもの、鋏や農具など園芸や農業を支えるものを紹介します。



## NEWS 1 佐潟での保全活動

佐潟は今年でラムサール条約湿地として登録されて20周年になります。ラムサール条約とは、正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」と言い、1971年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において採択されました。

湿地には様々な生物が生息しますが、干拓や埋め立て等の開発の対象になりやすく、世界で最も破壊が進んでいる環境です。さらに水鳥は国境を越えて渡りすることから、保護には国際的な取組が求められたため、このような条約が生まれました(外務省HP)。この条約は、環境の観点から本格的に作成された多国間環境条約の中でも先駆的なものであり、現在では広く用いられるようになった「持続可能な利用」(Sustainable Use)という概念を、その採択当初から「適正な利用」(Wise Use)という原則で取り入れてきました。



1980年頃の佐潟の様子  
(かつては水田として利用)



地元の赤塚中学校も参加する  
「潟普請(かたぶしん)」の様子



佐潟でのヨシ刈りによる影響の調査状況

新潟市は白鳥の飛来数が全国1位で、佐潟、鳥屋野潟、福島潟の三つの潟湖には多数が訪れ、佐潟はオオハクチョウやコハクチョウ等の水鳥の飛来地として1996年にラムサール条約に登録されました。

しかし、ラムサール条約湿地として登録されれば環境や生物が保全されるというわけではなく、佐潟の場合も登録後に多くの人が様々な活動を行うことで環境が維持されてきました。その代表的な活動が地元住民より行われる「潟普請(かたぶしん)」と呼ばれる活動で、佐潟の底にたまった泥を上げる作業やヨシ刈り、清掃活動などが行われています。当園では、水質改善や生物多様性保全を目的として2007年から実施されているヨシ刈りによる植生変化についての調査について協力を行ってきました。

20周年の記念イベントでは、佐潟と共に歩んだ地元の方々の歴史やこれまでの活動を紹介することで、将来の姿や活動を確かめる場にもなるのではないかと思います。皆様も是非イベントに足をお運び頂き、「里潟」佐潟について知っていただければ幸いです。(久原泰雅)



目をひいていた越後丘陵公園の雪割草展示



新潟の花展示の様子

## NEWS 2 全国花のまちづくり長岡大会

5月28日、29日に行われた「全国花のまちづくり長岡大会」に出展しました。このイベントは公益財団法人日本花の会が、花のまちづくりを全国で推進するために各地の自治体と行っているもので、今年度は長岡市で開催されました。

植物園では、国営越後丘陵公園のバラ、雪割草と里山の植物とともに、抑制栽培を行って咲かせた新潟の花(シャクナゲ、ツツジ、ボタン、チューリップ)を会場内に展示しました。会場を訪れた方からは、この時期に見られるとは思わなかったとの声をいただきました。花生産のさかんな新潟を知ってもらえる展示となったと思います。

大会では、花のまちづくりコンクールの受賞者と地元長岡の活動団体の事例発表や、講演会、ステージイベントなどが行われました。イベントを通して、新潟県の花の活動がさらにさかんになっていくことを期待しています。(林 寛子)

## NEWS 3 第15回にいつ花ふるフェスタ

いつ花ふるフェスタ(主催:いつ花ふるフェスタ実行委員会)が6月5日に開催されました。

青空の下、芝生広場の特設ステージでは、地元の小中学校やグループの方々による歌やダンス、演奏を披露いただいたほか、音楽ライブが行われました。子供に人気のミニSL試乗体験、飲食の出店なども賑わいました。

花と緑の情報センターでは昨年に引き続き盆栽家の山田香織さんの園芸教室が開催されました。寄せ植えの実演と解説、その後3名の受講生をまじえて教室形式で寄せ植えづくりを行いました。若年層や女性にも楽しめる寄せ植えという形で草木や苔、化粧砂などを使って鉢の中に風景をつくる新しい盆栽の楽しみ方を教えていただきました。

ミニガーデンコンテストは5日の来場者の投票と山田香織さんの審査によって、賞が決定しました。



ミニガーデンコンテスト展示



山田香織さんの園芸教室

## NEWS 4 シャクナゲ大株の新規植栽

西洋シャクナゲとは、19世紀からヨーロッパに導入されはじめた中国や日本原産のシャクナゲを交配してできた園芸品種のことを指します。野生種は高地に自生するため、夏が涼しいヨーロッパとアメリカを中心に、これまでに5,000品種以上が作出されました。豪華な花容で「花木の王」といわれ、西欧の庭園には欠かせない花木として人気があります。

日本への導入は、当園の調査で明治39年に岩崎小弥太によって行われたことが明らかとなっています。その後、昭和に入ってから流行し、新潟市の長尾草生園(長尾次太郎)、金沢市の成瀬勝久、横浜市の箱根屋植木(和田弘一郎)が有名な生産販売者として知られるようになりました。長尾氏は昭和10年に覚えにくい外国語の品種名に独自の日本名をつけることで、シャクナゲの普及に大きく貢献しました。

今年、長尾氏の子孫にあたる「花卉園芸長尾勝平」様より、現在では希少となった大正から昭和にかけて導入された古い時代のシャクナゲの大株が新潟県に寄贈され、当園に植栽がはじまりました。今春はハーブ園とシーボルト園の間に6株が試験的に植栽されました。数年後には新潟県にゆかりの深い貴重な品種が集められたシャクナゲ園をオープン予定ですので、皆様に圧倒的なボリュームの花をお楽しみいただけると思います。(倉重祐二)



「秀峯」と名付けられた「サッフォー」



「都獅子」(ウィリアム・オースチン)



「本場ハナと蘭」



「照姫」(「マイケル・ウォータラー」)



「照姫」(「マイケル・ウォータラー」)

移植されるシャクナゲ「アンナ・ローズ・ホイットニー」

長尾草生園(昭和12年)の通信販売カタログ、上から秀峯、藤娘(「ファストウーサム・フロレ・プレジ」)、照姫。すべて現存し、今後植栽される予定

園内  
ウォッチング

### 温室●目をひく華やかさのブーゲンビレア

(Bougainvillea) オシロイバナ科



中心の白色の部分が花



苞が重なった八重咲きの園芸品種

ブーゲンビレアは丈夫で長期間開花することから、熱帯各地で広く栽培される、つる性の熱帯花木です。色鮮やかな花のように見える部分は苞(ほう)で、本来は蕾の中で花を包んで保護している小さな葉ですが、変化して大きくなっています。その苞の中に白色の小さな筒状の花をつけます。花はあまり目立ちませんが、苞の間からちょこんと顔を出している姿は可愛らしいです。

苞は触ってみると薄くて、紙のような質感なので、英名では「ペーパーフラワー」と呼ばれています。そして、自然界では主な受粉者であるハチドリをその美しい苞で引きつけます。植物にはドクダミやミズバショウなど、ブーゲンビレアのように苞

で送粉者を引き寄せるものがあります。鮮やかなものに惹かれるのは鳥も人間も同じなのかもしれません。ハチドリやミツスイなどの鳥、コウモリ、チョウ、ガ、ハエ、アリなど、何によって花粉が運ばれているのか、どうしてその種類が来るのか、色なのか匂いなのか、蜜なのか、花や雄しべや雌しべもそれぞれの送粉者に花粉を運ばせるための特別な形や仕組みについて調べて見ると一層興味がわくと思います。

熱帯植物ドームのブーゲンビレアには、苞の色がピンクやオレンジ、白、また苞が重なった園芸品種(白い苞で先端にうっすらとピンクが入る)もあります。(桐生 綾香)

園内  
ウォッチング

### 園地●ヒペリカム

(Hypericum) オトギリソウ科



道路の緑地帯や公園などにも  
うえられるカリキヌム



江戸時代に中国から渡来した  
キンシバイ



庭園で近年よく栽培される  
「ヒドコート」



斑入り葉が美しい「トリカラー」

キンシバイやビヨウヤナギの黄金色の花は、初夏から夏へと移り変わる季節を知らせます。近年これらに新しい種類が加わったため、この仲間を属名のヒペリカムと呼ぶようになりました。

キンシバイやビヨウヤナギは中国原産の半常緑灌木で、日本には江戸時代に渡来しました。日本原産種には、葉草として用いられるオトギリソウやトモエソウなど20種ほどがありますが、どれも草本植物です。

オトギリソウは「弟切草」と書き、以下のような話が伝えられています。花山院の御代、代々伝わる葉草でタカの傷を治していた鷹匠が、その秘密を他に漏らしてしまっ。それを聞いた鷹匠の兄は激憤して弟を切り、その血しづきがオトギリソウに飛び散った。以

来、葉に黒色の斑点がついたという。このようにオトギリソウは古くから切り傷の葉草として利用されてきました。

当園の木本のヒペリカムには、わい性のカリキヌム、キンシバイに似た大輪の花を咲かせる「ヒドコート」、葉にクリーム色と赤色で縁取られる「トリカラー」、キンシバイなどがあります。どれも花の少ない6月下旬から7月に次々に花を咲かせます。(倉重祐二)